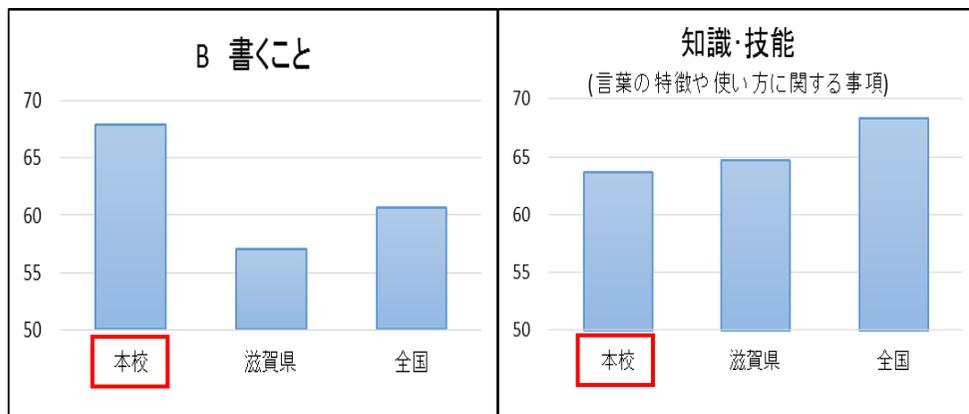


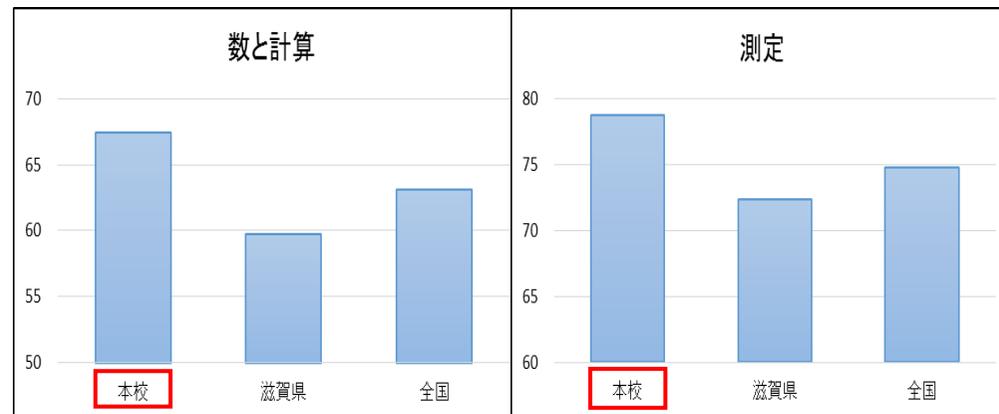
学力向上に向けた分析と今後の取り組み

《全国学力学習状況調査（2021/5/27 6年生対象）による本校の強みと弱み》

【学習にかかわること 国語】



【学習にかかわること 算数】



【強みと弱み】

「書くこと」の領域は、記述式問題を中心にしたどの問題も全国平均を7.2ポイントと大幅に上回っています。文章やスピーチの下書きの構成や展開を考える問題について条件を満たして解答することができます。

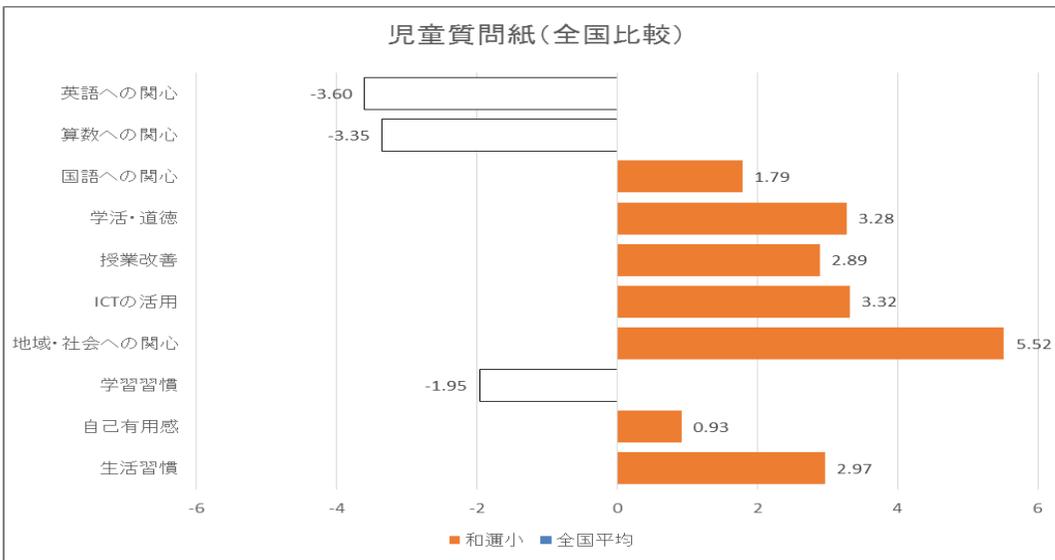
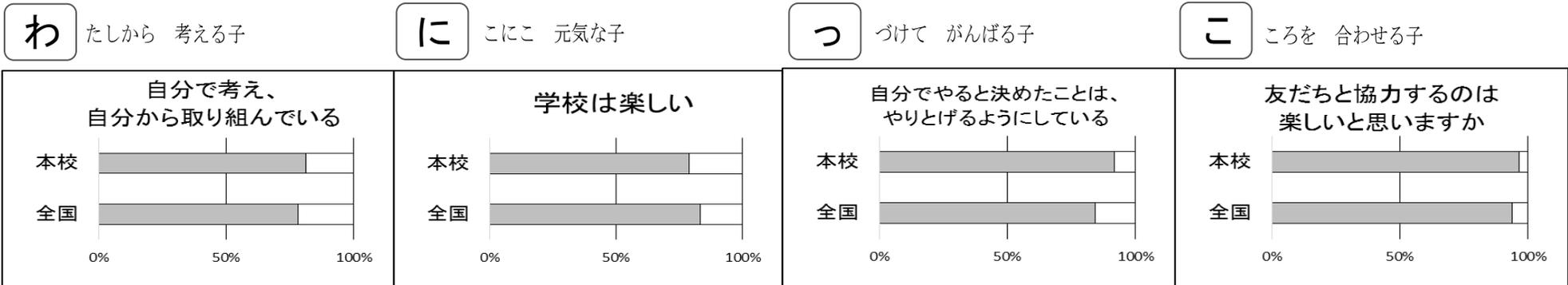
一方、「知識・技能(言葉の特徴や使い方に関する事項)」については、全国平均を下回4.6ポイント下回っています。漢字を文中で正しく使うことや、主語・述語・修飾語の関係を正しく捉えることに課題があることがわかりました。

【強みと弱み】

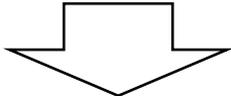
学習指導要領の5領域中4領域で全国平均を上回っています。特に高かった「数と計算」の領域では、計算の結果の意味を日常的な場面に即して判断し解釈することができます。また、「測定」の領域では、問題場面から、必要な数量を選択し、事柄や関係を数学的に表現・処理することができます。

一方、「図形」の領域では、図形の計量について、図形を構成する要素などに着目して捉え、筋道を立てて説明する問題に課題が見られました。

【生活に関わること】(教育目標「わにっこ」と近い内容の質問項目を掲載しています)



【強みと弱み】本校児童は、過去の調査結果を比較した経年変化からみても、「地域の行事に進んで参加している」割合が非常に高く、地域の方々の学校に対する支援体制も整っている。また、ICTの活用状況では、タブレットが1人1台配備されたことから、毎日当たり前のよう活用することができており、使用頻度や活用に対して肯定的な回答をしている児童の割合は大変高くなっている。しかし、算数や英語に対する興味関心が全国平均に比べて低いため教科に苦手意識を持っている児童がいると考えられる。また、家庭学習の習慣が身につけていない児童や学習時間が比較的少ないという結果が明らかになった。



- 【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取り組み事項】
- 学校での授業改善……どの教科においても、学習の「めあて」の提示と学習の「ふりかえり」を行うことにより、課題意識を持って学習に取り組めるようにする。また、児童に教科学習の興味関心を引き出すため、魅力的な教材作り、発問の工夫など、授業作りに力を入れる。
 - 家庭での学習習慣改善……和邇小学校家庭学習の手引きの見直しをする ・ 興味のある内容や課題に取り組む自主学習ノートの実践
 - 学校・地域・家庭の改善……ふれあい教室での交流・学習、活動支援体制の拡充・コミュニティースクールによる地域資源(人・もの・事)の新規発掘と有効活用